

どんな活動？

国立情報学研究所(NII)では、音声資源の普及・配布を推進するために、**音声資源コンソーシアム(NII-SRC)**を設置しています。

NII-SRCでは、音声に関する学術・教育・産業の発展に必要な**音声資源(音声データやソフトウェアツール)の収集、配布、調査および研究**を行っています。

なにがわかるの？

個人では作成が困難である音声コーパス(データベース)を組織的に大規模に整備・配布することにより、音声認識・音声合成をはじめとする、さまざまな研究の発展に寄与することができます。

また、方言や少数言語などの音声を保存することで、社会言語学や音声学においても貴重な資料となり、学術的寄与が考えられます。

1. 「音声コーパス」とは？

コーパスとは？

研究のための資料を体系的に収集し、研究用の情報を付加したものを**コーパス(corpus)**と呼びます

例：音声コーパス、テキストコーパス、画像コーパス、マルチメディアコーパスなど

音声コーパスの種類と用途

【用途】音声認識、音声合成、音声分析、認識評価、談話分析、方言分析、言語保存、など

【種類】読み上げ(単語、連続)音声、対話音声、会議音声、方言音声、多言語音声、非母語話者音声、乳幼児音声、高齢者音声、雑音環境、残響環境 など

音声コーパスの形態

用途やデータ容量により異なりますが、その時代の主流のメディアが用いられます。現在は、DVD-Rによる配布が主流です。将来的にはネットによる配信も期待されています

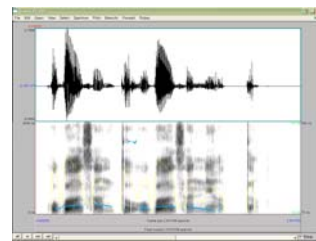
【音声コーパスで用いられる配布メディア】

CD-R, DVD-R, HDD, DAT, LD など

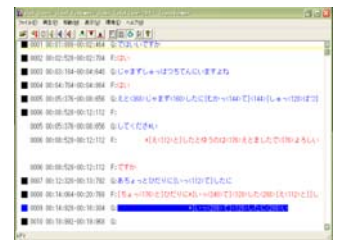


音声コーパスの内容

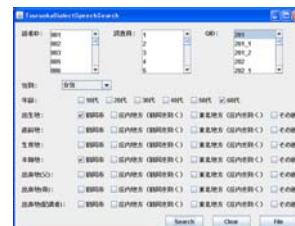
音声コーパスは音声データ以外にも、すぐに研究に使えるよう転記テキスト、分析データ、発話の様子を収録した動画、検索ツールなどを含んでいます



発話音声データ



転記テキスト



音声検索ツール



発話画像データ

2. 音声資源コンソーシアムとは？

なぜ今、音声コーパスなのか？

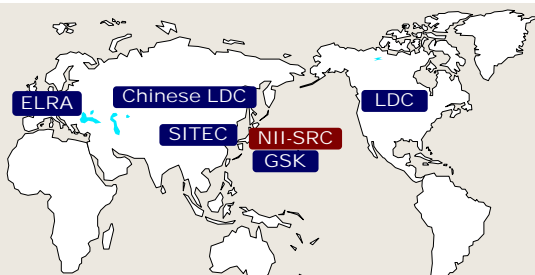
- ・ 音声情報処理技術の進歩(音声認識、合成など)
- ・ 言語分野における計量的研究の展開
- ・ 世界の諸言語・方言の保存、研究・分析の重要性

各種・大量の音声データが必要

音声コーパスの問題点

- ・ プロジェクト用、実験用に作成されたものが多い
- ・ 作成に費用、時間、手間がかかる
- ・ 高価である
- ・ 一般には非公開

音声データの作成・収集・蓄積・配布・共有のための共通の枠組みが必要



世界の音声・言語資源取り扱い機関

音声資源コンソーシアム(NII-SRC)

各種音声データの収集・管理・配布を行う機関として
2006年 国立情報学研究所(NII)に設置

【活動内容】

- ・ 音声コーパスの内容、所在、利用方法に関する情報の収集・提供
- ・ 未公開コーパスの調査、提供依頼
- ・ 音声コーパスの配布、普及、広報活動
- ・ 研究倫理、話者承諾に関するガイドライン作成
- ・ 音声情報処理に関する研究開発の推進
- ・ 音声資源の標準化
- ・ コーパスに関する調査・分析・研究
- ・ 新しい音声資源の設計、構築、支援
- ・ 海外の類似組織との連携

現在、31種類の音声コーパスを取り扱っています

10年後は？

- Web上のデータの利用
- 危機言語のデータ保存
- 日本におけるコーパス配付組織の統一